

1) わが国の慢性透析療法の要約

日本透析医学会は、1968年から毎年末に、全国の透析療法施設を対象に統計調査を行っている。従来の4つのシートから成り立っていた調査票を、今回の調査から施設調査票（透析ベッド数、スタッフ数、患者数などの施設背景に関する調査：旧シートⅠ）と、患者調査票（個々の患者に関する調査：旧シートⅡ、Ⅲ、Ⅳ）に変更した。

2012年末の統計調査は全国の4,279施設を対象に実施され、4,233施設から回答が寄せられた。2011年末から20施設増加である。施設調査票の回収率は98.9%、患者調査票の回収率は96.3%であり、それぞれ2011年の図説作成時の98.8%、96.2%より改善した。調査に協力賜った各施設のご好意ならびに地域協力委員の諸兄に対し、紙面をお借りして深甚なる感謝の意を呈したい。

これらの調査結果を集計した2012年末のわが国の慢性透析療法の現況を速報版として報告する。なお、この図説（速報）に掲載された患者数などは速報値である。年末までに追加・修正されたデータを基に作成された確定値はCD-ROM版として配布される。透析患者数の推移など昨年との比較で図説に記される値は、2011年のCD-ROM版（確定値）との比較であり、2012年と2011年の比較についての確定比較は2012年版CD-ROM版とで行っていただきたい。

(1) わが国の慢性透析療法の要約 (図表1)

施設数		4,233施設	(20施設増)	0.5%増
設備	ベッドサイドコンソール	124,930台	(3,067台増)	2.5%増
能力	同時透析	123,204人	(3,277人増)	2.7%増
	最大収容能力	414,049人	(8,468人増)	2.1%増

慢性透析患者	309,946人	(5,090人増)
--------	----------	-----------

※慢性透析患者の総数は、施設調査票 患者総数欄の合計であり、治療方法別患者数の合計とは必ずしも一致しない。

人口100万対比	2,430.7人	(45.3人増)
----------	----------	----------

昼間	258,066人	(83.3%)
夜間	41,976人	(13.5%)
在宅血液	394人	(0.1%)
腹膜透析	9,510人	(3.1%)

HD、HDF等とPDを併用している患者数	1,935人
腹膜カテーテルを残している洗浄患者など	350人
腹膜透析新規導入、年内脱落患者数	176人

導入患者数	38,165人	(448人減)	1.2%減
死亡患者数	31,110人	(367人増)	1.2%増

上記は施設調査による集計

	男性	女性	不詳	計
5年未満透析患者数	94,998	47,953	0	142,951 (47.6%)
5年以上10年未満透析患者数	47,657	28,107	0	75,764 (25.2%)
10年以上15年未満透析患者数	22,980	15,454	0	38,434 (12.8%)
15年以上20年未満透析患者数	11,515	8,671	0	20,186 (6.7%)
20年以上25年未満透析患者数	5,939	5,051	0	10,990 (3.7%)
25年以上透析患者数	6,619	5,674	0	12,293 (4.1%)

※透析歴別患者数は患者調査票より算出

患者調査による集計

最長透析歴	44年9ヵ月
-------	--------

患者調査による集計

解説

今回の調査で回答された施設は4,233施設となり、前年度と比べ20施設（0.5%）増加した。ベッドサイドコンソールは124,930台であり3,067台の増加、同時透析可能人数は123,204人、最大収容能力は414,049人であり、それぞれ2.5%、2.7%、2.1%の増加であった。

一方、透析スケジュール別にみると、昼間透析の割合は83.3%で前年度と同一、夜間透析は13.5%で0.1%増加した。在宅血液透析患者は394人であり、67人増加した。一方、腹膜透析患者数は9,510人で、132人減少し、全透析患者数に占める割合も3.1%と0.1%減少した。腹膜透析患者と血液透析の併用患者は1,935人で33人増加し、腹膜カテーテルを残しながら洗浄のみ実施している患者は350人で19人減少した。2011年に新規導入したが年内に腹膜透析から脱落した患者は176人であり、昨年とほぼ変化はみられなかった。

20年以上の透析患者数は23,283人で前年度と比べ819人増加し、全透析患者の中の割合で7.7%と漸増している。最長透析歴は44年9ヶ月であった。